

24. Tc-99m-HMPAO による脳 RN アンギオの意義
 ——ECT, X線 CT ならびに脳血管造影との比較—— ……仙田 宏平他…1445
25. ^{99m}Tc-HMPAO による脳血流シンチ ……牧野 直樹他…1445

一 般 演 題

1. IgM-HA 抗体 RIA キットの基礎的検討

金森 勇雄 川上 文浩 奥村 恭己
 疋田 稔 竹島 賢治 樋口ちづ子
 (大垣市民病院・放)

中野 哲 武田 功 小沢 洋
 熊田 卓 杉山 恵一 (同・消)
 佐々木常雄 (名大・技短)

今回われわれは、新たに開発された HA-IgM 抗体 RIA キット (SORIN BIOMEDICA) を入手する機会を得て基礎的検討を行った。

本法の Incubation 設定条件はいずれの Incubation とも安定したプラトー状態の範囲内にあった。また、再現性も HA-IgM 抗体陽性範囲内ではほぼ満足すべき値であり、最初の操作である 200 倍希釈倍率も適当なる値であると考え。さらに、本法と ABBOT キットとの相関は $r=0.975$ ($p<0.01$, $n=78$) で非常に優れていたことより、本キットは ABBOT キットと遜色なく A 型肝炎初感染の判定に利用し得るものと考え。

2. IgE リア・キットの検討

河村 信夫 月田 邦彦 山田 仁一
 大西 勝治 加藤 智美 小幡 康範
 (名古屋第一赤病院・放)

サンドイッチ固相法による高感度 IgE リアキットを使用する機会を得たので、結果を報告する。結果

- (1) 最小感度：最小感度は、0.1 IU/ml となった。
- (2) 再現性：2 種類の試料による同時再現性は、C.V. 値は 3.33%~2.73%。日差再現性は 1.6~3.33% となった。
- (3) 希釈、回収試験：3 種類の血清にて希釈試験を行ったが、いずれも原点を通る直線となった。回収試験は、回収率 91.5%~98.0%、平均 94.1% と良い成績となった。
- (4) 相関：IgE キットシオノギとの測定値 102 例で

は $r=0.985$, $y=0.95x+10.57$ となった。

(5) 健常者血中 IgE 値の分布：健常者計 57 例の血中 IgE 値は、3.8 IU/ml~330 IU/ml に分布した。

3. 画像処理システムにおける記録媒体としての光ディスクの性能と応用

越田 吉郎 小島 一彦 (金沢大・医短)

磁気テープや磁気ディスクなどの記録媒体は大容量の画像データの取扱いにおいてメモリー不足や煩雑さなどの欠点がある。最近、大容量の光ディスクが画像データベース構築の手段として注目されているので、光ディスクのアクセス時間などの基本的性能と教育用画像データベース構築の考え方について検討した。使用した光ディスク装置はネクサス 68151 である。

アクセス時間は複数画像を 1 画面とするピクチャアレイレクトリーによりかなり短縮できた。画像データベース構築は、項目による二次元データ構造と画像のみの順構造に分けた。それによって自由な検索設計ができ、目的に合った画像を効率よく検索することができた。

4. Bifunctional Chelating Agent を用いる Tc-99m キレート剤 Diamine dithiol (DADT) 類の開発

柴 和弘 森 厚文 (金沢大・RIセ)
 松田 博史 辻 志郎 大場 洋
 今井 啓子 久田 欣一 (同・核)

最近の核医学における放射性医薬品研究の流れとして、ポジトロン核種からシングルフォトン核種標識薬剤の開発へ移行しつつあると思われる。特に神経核医学領域において ¹²³I-標識薬剤の開発が目覚しく発展してきている。また、さらに安価で繁用性の高い ^{99m}Tc 核種で同じように放射性医薬品の開発が可能となればその臨床的有用性は飛躍的に高まることが期待される。そこで、われ